# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

09-002855

(43)Date of publication of application: 07.01.1997

(51)Int.Cl.

CO4B 24/26 CO4B 28/04

//(CO4B 28/04 CO4B 24:26

CO4B103:40

CO4B111:20

(21)Application number: 07-179332

(71)Applicant: HASEKO CORP

**TAKEMOTO OIL & FAT CO LTD** 

(22)Date of filing:

21.06.1995

(72)Inventor: SUZUKI KAZUO

**TSUNEMATSU TAKESHI** 

**IMAGAWA NOBUO** 

II KEIJI

MAKI YASUMINE AOYAMA HARUHIRO OGAWA MITSUHISA KINOSHITA MITSUO

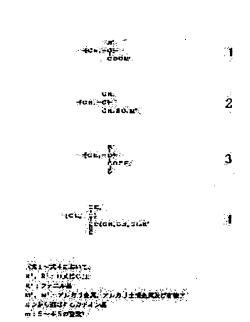
# (54) HIGH-EARLY-STRENGTH CONCRETE COMPOSITION

# (57)Abstract:

PURPOSE: To suppress the lowering of fluidity with time and the generation of cracks and improve the early strength of a high-early-strength concrete composition by adding a specific cement dispersing agent to a high-early-strength concrete composition containing specific amounts of a high-early-strength Portland cement, water, fine aggregate and coarse aggregate at respective specific amounts.

CONSTITUTION: A cement dispersing agent composed of a water-soluble vinyl copolymer consisting of 45-65mol% of the constituent unit A of formula 1, 2-15mol% of the constituent unit B of formula 2, 5-20mol% of the constituent unit of formula 3 and 10-40mol% of the constituent unit of formula 4 and having a number-average molecular weight of 2,000-20,000 is added in an amount of 0.1-2.0 pts wt. (based

constituent unit of formula 3 and 10-40mol% of the constituent unit of formula 4 and having a number-average molecular weight of 2,000-20,000 is added in an amount of 0.1-2.0 pts.wt. (based on 100 pts.wt. of high-early-strength Portland cement) to a high-early-strength concrete composition composed of a Portland cement meeting the JIS-R5210, water, fine aggregate, coarse aggregate and a cement dispersing agent and having a water/cement ratio of 30-65%, a water content of 140-180 kg/m3, a fine aggregate content of 700-1,200kg/m3 and a coarse aggregate content of 800-1,200 kg/m3. The cement dispersing agent is added together with kneading water in the kneading of the concrete composition.



## **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

28.10.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3162605

[Date of registration]

23.02.2001

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

#### (19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

### (11)特許出願公開番号

# 特開平9-2855

(43)公開日 平成9年(1997)1月7日

(51) Int.Cl.6		識別記号	<b>庁内整理番号</b>	ΡI	-		技術表示箇所
C 0 4 B	24/26			C 0 4 B	24/26	F	
						E	
	28/04				28/04		
// (C04B	28/04						
	24· 26						

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全 7 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平7-179332

(22)出廣日

平成7年(1995)6月21日

(71)出顧人 000150615

株式会社長谷工コーポレーション

東京都港区芝2丁目32番1号

(71)出願人 000210654

竹本油脂株式会社

愛知県蒲郡市港町2番5号

(72)発明者 鈴木 計夫

兵庫県川西市湯山台2丁目27-2

(72) 発明者 常松 豪

兵庫県三田市あかしあ台3-18-6

(72)発明者 今川 信夫

兵庫県神戸市農区城内通2-1-6-512

(74)代理人 弁理士 入山 宏正

最終頁に続く

### (54) 【発明の名称】 早強コンクリート組成物

#### (57)【要約】

【目的】本発明は、調製したコンクリート組成物の流動性の経時的低下が小さく、同時に得られる硬化物に充分な早期強度を発現させ、また乾燥収縮によるひび割れに対する抵抗性を高めることができる、早強コンクリート組成物を提供するものである。

【構成】本発明は、セメントとして早強ポルトランドセメントを用い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分散剤を用いて調製した早強コンクリート組成物において、水/セメント比、単位水量、細骨材の単位量及び粗骨材の単位量をそれぞれ所定範囲に設定し、且つセメント分散剤としてフェノキシポリエトキシエチルメタクリレートを1種の共重合成分として含む4種の共重合成分から得られる特定の水溶性ビニル共重合体を用い、かかるセメント分散剤を早強ポルトランドセメントに対し所定割合で用いることを特徴としている。

10

20

1

#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 セメントとして早強ポルトランドセメン トを用い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分散剤 を用いて調製した早強コンクリート組成物において、水 /セメント比が30~65%、単位水量が140~18 5 kg/m3、細骨材の単位量が700~1200kg/m3 及び粗骨材の単位量が800~1200kg/m<sup>3</sup>であ り、且つ早強ポルトランドセメント100重量部に対し て下記のセメント分散剤を0.1~2.0重量部の割合 で用いて成ることを特徴とする早強コンクリート組成 物。

セメント分散剤:下記の式1で示される構成単位A、下 記の式2で示される構成単位B、下記の式3で示される 構成単位C及び下記の式4で示される構成単位Dで構成 された水溶性ビニル共重合体であって、全構成単位中、 構成単位Aが45~65モル%、構成単位Bが2~15 モル%、構成単位Cが5~20モル%及び構成単位Dが 10~40モル%を占め、且つ数平均分子量が2000 ~20000である水溶性ビニル共重合体。

【式1】

【式2】

【式3】

【式4】

(式1~式4において、

R', R': H又はCH<sub>3</sub>

R<sup>3</sup>:フェニル基

M¹, M²:アルカリ金属、アルカリ土類金属及び有機ア ミンから選ばれるカチオン基

m:5~45の整数)

単位Aが50~65モル%、構成単位Bが3~15モル %、構成単位Cが7~20モル%及び構成単位Dが15 ~35モル%を占める水溶性ビニル共重合体である請求 項1記載の早強コンクリート組成物。

2

## 【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は早強コンクリート組成物 に関する。得られる硬化物に早期強度を発現させて工期 の短縮及び工事の省力化を図るため、早強コンクリート 組成物が使用されている。かかる早強コンクリート組成 物は、セメントとして早強ポルトランドセメントを用 い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分散剤を用い て調製したものである。本発明は、調製したコンクリー ト組成物の流動性の経時的低下を小さくし、同時に該コ ンクリート組成物から得られる硬化物に充分な早期強度 を発現させ、また乾燥収縮によるひび割れに対する抵抗 性(以下、ひび割れ抵抗性という)を高めることができ る早強コンクリート組成物に関するものである。

[0002]

【従来の技術】従来、早強コンクリート組成物として は、前記したようにセメントとして早強ポルトランドセ メントを用い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分 散剤を用いて調製したものが使用されている。そしてこ の場合、セメント分散剤としては、セメントとして普通 ポルトランドセメントを用いた通常のコンクリート組成 物を調製する場合と同様、各種の水溶性ビニル共重合 体、なかでも(メタ)アクリル酸塩とメタリルスルホン 酸塩と(メタ)アクリル酸メチルとメトキシポリエトキ シエチルメタクリレートとの4種の共重合成分から得ら 30 れる水溶性ビニル共重合体が使用されている(特公平5 -11057、特開平4-209613)。ところが、 セメントとして早強ポルトランドセメントを用い、また 高度に減水した早強コンクリート組成物の調製におい て、通常のコンクリート組成物を調製する場合と同様、 セメント分散剤として上記のような水溶性ビニル共重合 体を用いると、調製した早強コンクリート組成物の流動 性の経時的低下が大きく、また得られる硬化物の早期強 度の発現が不充分で、しかもひび割れ抵抗性が低いとい う欠点がある。

## 40 [0003]

【発明が解決しようとする課題】本発明が解決しようと する課題は、従来の早強コンクリート組成物では、コン クリート組成物の流動性の経時的低下が大きく、また得 られる硬化物の早期強度の発現が不充分で、しかもひび 割れ抵抗性が低い点である。

#### [0004]

【課題を解決するための手段】しかして本発明者らは、 上記の課題を解決するべく研究した結果、セメントとし て早強ポルトランドセメントを用い、更に水、細骨材、 【請求項2】 セメント分散剤が、全構成単位中、構成 50 粗骨**材及び**セメント分散剤を用いて調製した早強コンク

リート組成物において、水/セメント比、単位水量、細骨材の単位量及び粗骨材の単位量をそれぞれ所定範囲に設定し、且つセメント分散剤としてフェノキシポリエトキシエチルメタクリレートを1種の共重合成分として含む4種の共重合成分から得られる特定の水溶性ビニル共重合体を用い、かかるセメント分散剤を早強ポルトランドセメントに対し所定割合で用いたものが正しく好適であることを見出した。

【0005】すなわち本発明は、セメントとして早強ポルトランドセメントを用い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分散剤を用いて調製した早強コンクリート組成物において、水/セメント比が30~65%、単位水量が140~185kg/m³、細骨材の単位量が700~1200kg/m³及び粗骨材の単位量が800~1200kg/m³であり、且つ早強ポルトランドセメント100重量部に対して下記のセメント分散剤を0.1~2.0重量部の割合で用いて成ることを特徴とする早強コンクリート組成物に係る。

【0006】セメント分散剤:下記の式1で示される構成単位A、下記の式2で示される構成単位B、下記の式203で示される構成単位C及び下記の式4で示される構成単位Dで構成された水溶性ビニル共重合体であって、全構成単位中、構成単位Aが45~65モル%、構成単位Bが2~15モル%、構成単位Cが5~20モル%及び構成単位Dが10~40モル%を占め、且つ数平均分子量が2000~2000である水溶性ビニル共重合体。

【0007】 【式1】

【式2】

【式3】

【式4】

【0008】(式1~式4において、

R', R': H又はCH3

R<sup>3</sup>:フェニル基

 $M^1$ ,  $M^2$ :アルカリ金属、アルカリ土類金属及び有機アミンから選ばれるカチオン基

m:5~45の整数)

【0009】本発明の早強コンクリート組成物は、セメントとして早強ポルトランドセメントを用い、更に水、細骨材、粗骨材及びセメント分散剤を用いて調製したものである。かかる早強コンクリート組成物において、本発明では、水/セメント比を30~65%とするが、40~60%とするのが好ましい。また単位水量を140~185kg/m³とするが、150~180kg/m³とするのが好ましい。更に細骨材の単位量を700~1200kg/m³とするが、750~1100kg/m³とするのが好ましい。そして粗骨材の単位量を800~1200kg/m³とするが、850~1150kg/m³とするのが好ましい。

【0010】本発明で用いるセメントは、JIS-R5210に適合する早強ポルトランドセメントである。また本発明で用いる細骨材は、特にその種類を制限するものではなく、いずれも公知の川砂、海砂、山砂、砕砂等である。更に本発明で用いる粗骨材は、これも特にその種類を制限するものではなく、いずれも公知の川砂利、砕石、軽量骨材等である。

【0011】本発明で用いるセメント分散剤は、前記した式1~式4で示される構成単位A~Dで構成されたものである。これらの構成単位A~Dはそれぞれ相当するビニル単量体を共重合することによって形成される。

【0012】式1で示される構成単位Aを形成することとなるビニル単量体としては、1)メタクリル酸のアルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩及び有機アミン塩、

2) アクリル酸のアルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩 40 及び有機アミン塩がある。なかでもメタクリル酸のナト リウムやカリウム等のアルカリ金属塩が好ましい。

【0013】式2で示される構成単位Bを形成することとなるビニル単量体としては、メタリルスルホン酸のアルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩及び有機アミン塩がある。なかでもメタリルスルホン酸のナトリウムやカリウム等のアルカリ金属塩が好ましい。

【0014】式3で示される構成単位Cを形成することとなるビニル単量体としては、メチルアクリレート及びメチルメタクリレートがある。

50 【0015】式4で示される構成単位Dを形成すること

20

となるビニル単量体としては、いずれもオキシエチレン 単位の繰り返し数が5~45であるフェノキシポリエト キシエチルメタクリレートがある。なかでもオキシエチ レン単位の繰り返し数が15~40であるフェノキシポ リエトキシエチルメタクリレートが好ましい。

【0016】本発明のセメント分散剤は以上説明したような構成単位A~Dで構成された水溶性ビニル共重合体であって、これらの全構成単位中、構成単位Aを45~65モル%、好ましくは50~65モル%、構成単位Bを2~15モル%、好ましくは3~15モル%、構成単10位Cを5~20モル%、好ましくは7~20モル%、構成単位Dを10~40モル%、好ましくは15~35モル%の割合で有する水溶性ビニル共重合体である。

【0017】本発明によれば、水溶性ビニル共重合体を構成する構成単位A~Dのうちで、末端にフェニル基を持つポリオキシエチレン鎖を有する構成単位D及びその構成割合が特に重要である。構成単位Dを所定割合で有する前記した特定の水溶性ビニル共重合体をセメント分散剤として早強ポルトランドセメントに対し所定量用いることが、本発明の早強コンクリート組成物において、流動性の経時的低下を小さくし、同時に得られる硬化物に充分な早期強度を発現させ、しかもひび割れ抵抗性を高めることになる。

【0018】本発明はセメント分散剤として用いる水溶性ビニル共重合体の合成方法を特に制限するものではなく、その合成には公知の方法、例えば特開平6-206750号公報に記載されているような方法が適用できる。例えば、ラジカル開始剤の存在下に、各構成単位を形成することとなる前記した各ビニル単量体を所定の共重合比率となるよう水系溶液にてラジカル共重合することにより得られる。かくして得られる水溶性ビニル共重合体の数平均分子量は2000~2000(GPC法、プルラン換算)の範囲のものとするが、3000~15000節囲のものとするのが好ましい。

【0019】本発明において、セメント分散剤である水溶性ビニル共重合体の使用量は、早強ポルトランドセメント100重量部に対して、固形分換算で、0.1~2.0重量部とするが、0.5~1.5重量部とするのが好ましい。水溶性ビニル共重合体はコンクリート組成物の練り混ぜ時に練り混ぜ水と一緒に添加することがで40きる。

【0020】本発明の早強コンクリート組成物は、以上 説明したような早強ポルトランドセメント、水、細骨 材、粗骨材及びセメント分散剤を必須成分とするが、合 目的的に他の剤を併用することもできる。かかる他の剤 としては、空気連行剤、消泡剤、凝結促進剤、凝結遅延 剤、防錆剤、防腐剤、防水剤等がある。

【0021】以下、本発明の構成及び硬化をより一層具体的にするため、実施例等を挙げるが、本発明が該実施例に限定されるというものではない。尚、以下の実施例等において、部は重量部を、また%を空気量を除き重量%を意味する。

[0022]

【実施例】

0 試験区分1 (セメント分散剤としての水溶性ビニル共重 合体の合成)

・水溶性ビニル共重合体P-1の合成

メタクリル酸100部(1.16モル)、メタリルスル ホン酸ナトリウム40部(0.25モル)、メチルアク リレート25部(0.29モル)、フェノキシポリエト キシエチル(オキシエチレン単位の繰り返し数が15、 以下n=15という) メタクリレート400部(0.4 9モル)及び水750部を反応容器に仕込み、水酸化ナ トリウムの30%水溶液155部を投入して中和し、均 一に溶解した後、雰囲気を窒素置換した。反応系の温度 を温水浴にて60℃に保ち、過硫酸アンモニウムの15 %水溶液75部を投入して重合を開始し、6時間重合反 応を継続して重合を完結した。その後、酸性分解物の中 和のために30%水酸化ナトリウム水溶液5部を投入し て中和し、生成物を得た。得られた生成物の一部をエバ ポレータで濃縮し、アセトン/イソプロパノールの混合 溶媒中で沈殿精製して乾燥し、水溶性ビニル共重合体P -1を得た。水溶性ビニル共重合体P-1をUV吸収、 NMR測定、熱分解ガスクロマトグラフィー、元素分 析、滴定等で分析したところ、カルボキシル価110、 イオウ含有量1.2%であり、構成単位A~Dに相当す る各ビニル単量体の共重合比率は、メタクリル酸ナトリ ウム/メタリルスルホン酸ナトリウム/メチルアクリレ ート/フェノキシポリエトキシエチル(n=15)メタ クリレート=51/10/13/26(モル比)で、数 平均分子量4800(GPC法、プルラン換算、以下同 じ)であった。

【0023】・水溶性ビニル共重合体P-2~P-5及びR-1~R-13の合成

水溶性ビニル共重合体P-1と同様にして、表1記載の 水溶性ビニル共重合体P-2~P-5及びR-1~R-13を得た。

[0024]

【表1】

7											8
水溶性	4	各構成単位に相当するビニル単量体及びその共重合比率									数平均
ピニル	構成単位A		構成單位B 構成單位C		構成単位D		その他の構成		分子量		
共重合体	相当		相当		相当		相当		単位相当		
の種類	種類	モル%	種類	モル%	種類	モル%	種類	モル%	種類	モル%	
P-1	A-1	51	B-1	10	C-1	13	D-1	25	. –	-	4800
P-2	A-1	55	B-1	7	C-1	17	D-2	21	-	-	7600
P-3	A-1	62	B-1	10	C-1	12	D-3	16	-	-	6200
P-4	A-2	50	B-1	5	C-1	15	D-1	30	_	_	12000
P-5	A-1	54	B-1	14	C-1	8	D-3	24		_	3100
R-1	A-1	60	B-1	15	C-1	20	D-1	5	-	-	3900
R-2	A-1	45	B-1	5	C-1	5	D-1	45	-	-	19800
R-3	<b>A-1</b>	40	B-1	15	C-1	20	D-2	25	-	-	3900
R-4	A-1	70	B-1	10	C-1	10	D-2	10	_	-	5900
R-5	<b>A-1</b>	65	B-1	1	C-1	20	D-1	15	-	<b>–</b> '	20000
R-6	A-1	55	B-1	20	C-1	10	D-1	15	-	-	2500
· R-7	<b>∆</b> −1	63	B-1	15	C-1	2	D-1	20	-	-	4800
R-8	A-1	50	B-1	10	C-1	25	D-1	15	-	-	8700
R-9	A-1	50	B-1	10	C-1	12	_	-	· E-1	28	5700
R-10	A-1	55	B-1	10	C-1	15	-	-	E-2	20	7800
R-11	A-1	65	B-1	15	C-1	20	-	-	-	-	3000
R-12	A-1	45	B-1	15	C-1	15	D-1	25	-	-	900

【0025】表1において、

A-1:メタクリル酸ナトリウム

A-2:アクリル酸ナトリウム

B-1:メタリルスルホン酸ナトリウム

R-13

C-1:メチルアクリレート

D-1:フェノキシポリエトキシエチル (n=15) メ 30 RHの調湿下、50リットルのパン型強制ミキサーに早 タクリレート

D-2: 7x/+ yxyx+ + yxyx+ (n=25)タクリレート

D-3:フェノキシポリエトキシエチル(n=40)メ タクリレート

E-1:メトキシポリエトキシエチル(n=10)メタ クリレート

E-2:ポリエチレングリコール (n=10) モノメタ クリレート

\*【0026】試験区分2(早強コンクリート組成物の調 製及びその評価)

49000

・早強コンクリート組成物の調製

表3に示す各例の早強コンクリート組成物を次のように 調製した。先ず表2に示す調合条件で、20℃×80% 強ポルトランドセメント、細骨材及び粗骨材を順次投入 して15秒間空練りをした。次いで、各例いずれも目標 スランプが18±1cmの範囲に入るように、セメント分 散剤を練り混ぜ水と共に添加して2分間練り混ぜた。ま た、空気量の調整は、各例いずれも目標空気量が4±1 %となるように空気量調整剤(竹本油脂社製の空気量調 整剤AE300)を添加して行なった。

[0027] 【表2】

調合	*/	単位量 (kg/m²)										
条件	セメント比	早強ポルトランド	水	糊1	粗骨材							
	(%)	セメント		海砂	碎砂	]						
1	50	350	1 <b>7</b> 5	544	244	963						
2	25	660	165	480	214	838						
3	70	246	172	592	265	1001						

【0028】表2において、

早強ポルトランドセメント:秩父小野田社製の早強ポル

トランドセメント(比重3.13)

細骨材:日比産海砂(比重2. 54)/男鹿島砕砂(比 50 調製した各例の早強コンクリート組成物について、次の

重2.65)=70/30(容積比)の混合物

粗骨材:岡崎産砕石(比重2.66)

【0029】・調製した早強コンクリート組成物の評価

ように評価した。結果を表3に示した。

スランプ:練り混ぜ直後、更に60分静置後及び90分

静置後に、JIS一A1101に準拠して測定した

スランプ残存率: (90分後のスランプ/直後のスラン\*

\*プ)×100

空気量:JIS-A1128に準拠して測定した

10

[0030]

【表3】

	Τ	セメント		直	俊	60分後		9 0 分後		スランプ
区分	阿合	₽	散剤							残存率
	条件	種類	添加量	スランプ	空気量	スランプ	空気量	スランブ	空気量	(%)
			(部)	(ca)	(%)	(cm)	(%)	(cm)	(%)	
実施例 1	1	P-1	0.66	18.9	4.6	18.3	4.7	17.8	4.6	94.1
2	1	P-2	0.60	18.7	4.5	18.1	4.5	17.4	4.3	93.0
3	1	P-3	0.72	18.5	4.7	17.9	4,4	17.5	4.1	93.0
4	1	P-4	0.90	18.6	4.4	17,7	4.5	17.0	4.3	91.4
5	1	P-5	0.78	18.5	4.6	18.0	4.6	17.1	4.4	82.4
比較例 1	1	R-1	0.28	18.1	4.7	14.4	4.7	13.4	4.5	74.0
2	1	R-2	0.42	18.0	4.5	12.5	4,3	9.4	4.1	52.2
3	1	R-3	0.48	18.3	4.4	13,3	4.1	11.8	3.9	64.4
4	1	R-4	0.41	18.2	4.7	13.5	4.4	10.7	4.2	58.8
5	1	R-5	0.55	18.1	4.3	11.2	4.2	7.3	4.0	40.3
e	1	R-6	0.45	18.3	4.4	12.9	4.3	10.8	4.2	59,0
7	1	R-7	0.31	18.6	4.8	15.3	4.5	11.6	4.2	62.4
8	1	R-8	0.41	18.1	4.4	13.5	4.2	12.1	4.1	66.9
9	1	R-9	0.31	18.4	4.5	16.3	4.3	13.2	4.0	71.7
10	1	R-10	0.33	18.5	4.5	14.6	4.2	12.0	4.0	64.9
11	1	R-11	0.30	18.2	4.6	12.0	4.3	7.8	4.1	42.9
12	1	R-12	0.49	5.8	4.3	*1	*1	*1	*1	<b>\$42</b>
13	1	R-13	0.65	6.2	4.4	*1	*1	*1	*1	*2
14	1	P-1	0.05	5.7	4.5	*1	*1	*1	*1	*2
15	2	P-1	0.65	18.9	4.3	4.2	4.2		_	<b>*2</b>
16	3	P-1	0.60	18.3	4.7	12,3	4.3	6.8	4.0	37.2

【0031】表3において、

\*1:直後のスランプ値が目標スランプ値にならなかっ たので測定しなかった

\*2:90分後のスランプ値がないため計算値なし 添加量:早強ポルトランドセメント100重量部に対す る固形分換算値

【0032】試験区分3(硬化物の作製及びその評価) ・硬化物の作製

# 1) 圧縮強度測定用硬化物の作製

試験区分2で調製した各例の早強コンクリート組成物を 直径10cm×髙さ20cmの鋼製円筒型枠へ打設した。2 0℃で1日気中養生したものを材齢1日の供試体とし、 また20℃で3日又は28日水中養生したものをそれぞ れ材齢3日の供試体、材齢28日の供試体とした。

# 2) 乾燥収縮測定用硬化物の作製

試験区分2で調製した各例の早強コンクリート組成物 を、JIS-A1132に準じて、寸法10cm×10cm ×40cmの鋼製直方型枠へ打設し、硬化したものを供試 50 【0034】

体とした。

3) ひび割れ発生日測定用硬化物の作製

試験区分2で調製した各例の早強コンクリート組成物を 用い、JIS原案(セメントコンクリート、53~55 頁、532号、1991年)の方法による鋼製型枠へ打 設し、そのまま20℃×60%RHで保存したものを供 試体とした。

【0033】・作製した硬化物の評価

前記1)~3)で得られた各供試体について、次のよう に評価した。結果を表4に示した。

圧縮強度: JIS-A1108に準拠して測定した 乾燥収縮率:JIS-A1129に準拠し、コンパレー タ方法により測定したひび割れ発生日:JIS原案(セ メントコンクリート、53~55頁、532号、199 1年)の方法に準拠して測定した(この試験方法は、拘 束によりひび割れが必ず入るようになっており、ひび割 れ発生日の遅い方がひび割れ抵抗性の高いことを示す)

# 【表4】

-	乾燥	以解率	ひび割れ	n 圧縮強度					
区分	(×10 <sup>-4</sup> )		発生日		(kgf/cm²)	1			
	材齢28日	材齡91日	(日)	材齢 1日	材齢 3日	材酚28日			
実施例 1	2.71	4.80	44	175	340	473			
2	2.80	4.95	45	188	366	478			
3	2.92	5.01	43	180	352	475			
4	3.10	5.38	44	163	315	465			
5	3.02	5,05	45	163	317	470			
比較例 1	3.20	6.25	33	138	270	462			
2	3.42	6.32	30	93	190	442			
3	3.48	5.37	29	113	264	455			
4	3.51	6.44	27	110	191	441			
5	3,39	6.37	30	26	- 193	450			
6	3.70	6.62	27	128	254	449			
7	3,49	6.41	28	145	285	460			
8	3.25	6.31	30	122	254	451			
9	3.22	6.27	33	142	276	464			
10	3,98	6.70	26	129	256	457			
11	3,30	6.26	32	120	245	452			
12	*3	<b>*3</b>	*3	<b>*</b> 3	*3	*3			
13	<b>#</b> 3	*3	*3	*3	*3	*3			
14	#3	*3	*3	*3	*3	*3			
15	*4	<b>*</b> 4	*4	*4	*4	*4			
16	4.53	8.33	25	54	230	337			

【0035】表4において、

た

11

\* 4:供試体を作製できなかったので測定しなかった [0036]

【発明の効果】既に明らかなように、以上説明した本発\*

\*明には、従来の早強コンクリート組成物に比較して、調 \*3:目標スランプ値に達しなかったので測定しなかっ 30 製した早強コンクリート組成物の流動性の経時的低下が 小さく、同時に得られる硬化物に充分な早期強度を発現 させ、またひび割れ抵抗性を高めることができるという

効果がある。

#### フロントページの続き

(51) Int.Cl. 6

識別記号 庁内整理番号 FΙ

技術表示箇所

C O 4 B 24:26)

103:40

111:20

(72)発明者 伊井 敬二

兵庫県神戸市北区松が枝町1-1-43-

905

(72)発明者 牧 保峯

愛知県幡豆郡吉良町大字吉田字大切間30

(72)発明者 青山 晴洋

愛知県豊橋市北島町北島238

(72)発明者 小川 盈弥

奈良県奈良市百楽園1丁目8-28 フォル

ム学園前201号室

(72)発明者 木之下 光男

愛知県豊川市為当町椎木308番地